

7 月期相場概況

7 月期の日経平均株価は約 398 円上昇した。期中の高値は期末 7/31 の日中高値 10,359 円、安値は期中 7/13 の終値 9,050 円

7 月期の日経平均は、先月までの穏やかな相場展開から一転、荒れ模様と言える展開となった。先月末に 10,000 円の大台を固めることのできなかった日経平均は、短期的に調整局面に入った。それまで楽観相場が続いていたが、米国雇用統計の予想以上の悪化で雰囲気が一変。市場が再び経済の後退リスクに注目するようになり、為替も円高・ドル高に大きく振れ、明確に調整局面入りとなった。急速な円高により、輸出企業の株が売られ日経平均は期初 7/1 高値 10,086 円から 9 営業日連続続落、7/13 終値は 9,050 円と一気に 9,000 円の大台を割る水準まで下落した。9,000 円台の大台を守ったことと、米株の調整が終わり、円高一服、また中国株の上昇が続いたことで日経平均は調整終了、再び上昇を続けた。

この上昇は連休前の 7/17 までは通常の見返りと言えもので、IV も低下を続けていたが、連休中の米株が大幅反発を見せてからの週明けの日経平均は非常に極端な上昇で全体 IV も上昇する珍しい上昇局面となった。今期末まで一度も押し目を作らずに 7/27 には再び大台の 10,000 円を回復、7/29 には年初来高値を更新し 13 営業日連続続伸、7/31 には 10,356 円と今年の年初来高値を更新し続ける非常に強い動きとなった。今期の動きは、10,000 円 9,000 円 10,400 円という動きで、値幅としては-10,000 円+14,000 円と大きかったこと、また下落・上昇それぞれ休みなく続いたことが特徴な期であった。

リンカーン・インヴェストメント株式会社